

**委託事業実施内容報告書**  
**平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム(B)】**

**内容報告書**

団体名：一般社団法人グローバル人財サポート浜松

**1. 事業の概要**

事業名称	外国人住民のキャリア形成と社会参画のための地域日本語教育支援プロジェクト
事業の目的	静岡県西部地域に在住する外国人の自己実現とキャリア形成のための日本語教育スキームの構築を目指す。そして高い日本語能力を有する外国人が多文化コンシェルジュとして、同国出身者の後輩外国人のために日常生活の情報や母国語で日本語を学ぶことができる機会の提供ができるようにし、多文化コンシェルジュの育成と彼らの実践を通して、互助共助の外国人コミュニティの構築と外国人の社会参画につなげていく。さらに、本事業を地域を構成する企業、行政、NPOなどと連携・協働することで、社会包括的な外国人に対するキャリア形成のための日本語教育支援の仕組みを確立していく。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	浜松市には現在総人口の3%となる約2万人の外国人が集住し、市は積極的に多文化共生を推進している。そのため、市やNPOが主催する日本語教室も数多くあるのだが、その多くが初級から中級レベルの日本語教育支援で留まっている。今後、外国人市民も地域社会を担う人材として社会参画を促していくには、日本人との交渉力や文章作成力などの日本語能力を習得する必要がある。すると、外国人が持つ多文化パワーを活用した地域の情報発信力を高めることもできる。そのうえ、外国人住民の地域に対する愛着心を深めることも可能になる。これからのグローバル化社会では、いつまでも外国人を被支援者として支援していくのではなく、恒常的に外国人が日本語を学ぶことができるようにしていくことが求められる。そのため外国人住民のなかには自身のライフステージに合わせたキャリア形成のための日本語教育を望む声もあるが、外国人自身のライフステージに合わせた自己実現につながる日本語教育の機関が少ないことが現状である。こうしたことから、外国人市民の社会参画と共に、彼らの自己実現につながる日本語教育の支援体制の整備が喫緊の課題となっている。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	<p>本事業は上記の目的を果たすため、下記の内容を実施した。</p> <p>①多様な機関との連携により外国人の自己実現や社会参画に至るためのキャリアデザインにむけた日本語教育スキームの確立を行った。</p> <p>②多文化コンシェルジュの育成を行う；多文化コンシェルジュの育成を通して、次世代リーダー候補にもなる外国人材を発掘した</p> <p>③バイリンガルで学べる日本語教室の設置；多文化コンシェルジュによる母国語を活用した日本語教室の設置により、これまで直説法での日本語教室に馴染めなかった外国人のニーズに適應した日本語学習支援を行った。これにより、地域にある日本語教室への軟着陸での学習意欲の向上や日常生活上で緊急性の高い内容をすぐに学べるなどの学習ニーズ対応の充実を図った。</p> <p>④多文化コンシェルジュによる取組報告会の開催；静岡県西部地域の外国人リーダーによる情報発信を行った。</p>
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月（11か月間）

**2. 事業の実施体制**

**(1) 運営委員会**

**【運営委員】**

1	西原 鈴子	NPO法人日本語教育研究所
2	佐藤 宏明	浜松市国際課
3	佐野 憲	株式会社はまぞう
4	金城 アイコ	NPO法人ARACE
5	堀 永乃	一般社団法人グローバル人財サポート浜松



**【概要】**

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年6月1日 (土) 13:30～15:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子、佐藤宏明、佐野憲、金城アイコ、堀 永乃	・平成28年度事業の振り返りと課題 ・今年度事業の目標と計画
2	平成30年1月10日 (水) 13:30～15:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子、佐藤宏明、佐野憲、金城アイコ、堀 永乃	・コンシェルジュ講座の進捗状況報告 ・スキーム会議の進捗状況と課題について
3	平成30年3月9日 (金) 13:30～15:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子、佐野憲、金城アイコ、堀 永乃	・事業総括
4					

## (2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	静岡県多文化共生課とも情報共有を図り、県内在住の外国人の状況を十分に分析することにより、外国人が日本語を学びやすくするための環境整備を行った。浜松市においては、多文化コンシェルジュのような地域の担い手として活躍できる外国人の社会参画の促進を共に連携して行った。バイリンガルを活用した日本語教室の設置運営においては、外国人が集住する地域の小学校や外国人コミュニティとも情報共有を図り、当該地域の外国人コミュニティの構築に資する連携体制を整えていった。さらに、こうした取組の周知にあたり県西部の国際交流協会(浜松、磐田、森、袋井、湖西)に協力を要請し、当事業の展開を見据えていった。事業最終年度ということもあり、地域包括的に企業や地域住民、大学生とともに事業を推進していくことで、多文化共生に資する地域日本語教育の効果を得る事ができた。
------	--

## (3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	コーディネーターは、講師との折衝、関係機関との情報の収集・提供・共有を図り、外国人当事者が自ら発案し実践する事業として成果を見出せるようにしていった。また、事業の総責任者として、関わるすべての人と機関(行政・企業・学校)の連携・協働を進めた。指導者として中核メンバーにあたる二名は、外国人当事者として日本語学習歴を有し、平成28年度の委託事業のなかで多文化コンシェルジュに対して日本語指導を行った者であり、受講者である外国人のニーズを的確に把握している。この経験を活かし、昨年度事業の発展形として多文化コンシェルジュによる初期日本語カリキュラム開発を行ったり、外国人コミュニティ形成に向けた新たな教室を開設する際に、後輩外国人に対して指導や助言、協力を行っていった。
----------	---

### 3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組1	取組の名称		外国人住民の社会参画に向けた日本語教育スキームの確立のための委員会							
	取組の目標		外国人住民のキャリアデザインと社会参画に至るまでの教育スキームの確立を目指すことを目標とする							
	取組の内容		近年、リーマンショック以降外国人人口の減少は見られるが、日本に滞在する外国人の長期化が進んでいる。なかでも派遣・請負の雇用形態から正社員雇用を希望する外国人も増えてきており、彼らのキャリアデザインに対する教育カリキュラムが必要であると考えた。こうしたことから、生活者のための日本語教育カリキュラム案や平成28年度事業におけるキャリアパス案を精査しつつ、来日後から適応できる教育スキームの確立を目指した。そのため、外国人住民の社会参画に向けた日本語教育スキームの構築に向けた委員会を、外国人を雇用する企業、キャリアデザインの専門家、日本語教育の専門家、外国人リーダーらと共に構成し、外国人に対するキャリア形成のための日本語教育カリキュラム開発を進めた。							
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		外国人を雇用する企業と連携することにより、今後外国人を雇用或は正職員への登用を考える企業や、外国人に対する日本語教育支援を行う機関が活用できるよう、カリキュラムをまとめた。							
	取組による日本語能力の向上		外国人委員にとっては、意見を述べたりすることでより議論をするための日本語能力の向上へと繋がった。また、指導方法案の中身を検討する際に、当事者として客観的に日本語教育について考えることができた。							
	参加対象者						出席者数 (内 外国人数)	9人 ( 3人)		
	広報及び募集方法		事務局より選定し就任して行った							
	開催時間数		総時間 8時間(空白地域 時間)							
	主な連携・協働先		静岡県、浜松市、聖隷福祉事業団、平野ビニール工業㈱							
出席者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
						1			2	
		日本 6名(1名はオブザーバー)								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	出席者数	取組テーマ	内容	参加者名			
1	7月3日(月) 16:00～18:00	2時間	グローバル人材サポート浜松研修室	7名	外国人住民の社会参画に向けた日本語教育スキームの確立	・平成28年度事業の振り返り ・平成29年度事業の目標と成果物	宇賀田、山本、平野、宮本、金城、パルマ、堀			
2	9月22日(金) 15:00～17:00	2時間	グローバル人材サポート浜松研修室	5名	外国人住民の社会参画に向けた日本語教育スキームの確立	・成果物について ・ステップアップシートを活用した日本語教室の企画運営のための指導者が考えるプロセスとは	石川、金城、山本、宮本、堀			
3	12月18日(月) 16:00～18:00	2時間	グローバル人材サポート浜松研修室	5名	外国人住民の社会参画に向けた日本語教育スキームの確立	・授業モデル案について	宇賀田、金城、宮本、パルマ、堀			
4	2月15日(木) 15:00～17:00	2時間	グローバル人材サポート浜松研修室	7名	外国人住民の社会参画に向けた日本語教育スキームの確立	・授業モデル案の見直し ・事業の汎用性のための企業や地域への働きかけについて	宇賀田、石川、山本、金城、宮本、パルマ、堀			

## (1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

### ○取組事例①

【第2回 29年9月22日】

社会包括的に地域日本語教育の仕組みを構築するには、外国人市民のキャリアプランが欠かせない。しかしながら、外国人労働者の多くは、単純労働者として来日してきたため、企業側も終身雇用での正規社員に登用する事例はあまり多くない。一方、外国人側も正社員を望まないといった傾向があるため、外国人労働者はキャリアアップが望めない・望まない現状がある。そうした中、日本語を習得することがどの程度自分の人生に有益になるのか、日本語を使ってどのような社会的関係性を持つことが外国人市民の自己実現につながるのかといった議論が深められた。

### ○取組事例②

【第4回 30年2月15日】

社会への働きかけについて、地域へのアプローチ、企業へのアプローチの可能性を当事者である委員メンバーが積極的に議論した。その可能性は、まさに多文化コンシェルジュを日本人も取得できる資格化にすることや、大学の社会人講座での実施、企業の職員研修への導入など、幅広くあることがわかった。

## (2) 目標の達成状況・成果

昨年度開発したステップアップシートを汎用性のあるものにすべく、ステップアップシートを活用した日本語教室の実践例を作成することができた。これにより、地域でも職場でも、いわゆる「社会」におけるコミュニティの中に属したあとに必要となっていく日本語能力だけでなく、知識・技術、常識や習慣、価値観について習得できる仕組みのツールが開発された。

## (3) 今後の改善点について

多文化コンシェルジュは外国人市民だけになるものではない。海外生活の経験が豊かであったり、日本にいながらにして外国文化や外国人の価値観等を深く知る日本人もいるだろう。こうした言わば多文化ソーシャルワーカーのような存在として多文化コンシェルジュが成立し、その価値を社会的に構築していく必要がある。しかしながら、その場合にはある種の「資格化」も必要となる。また、ステップアップシートを活用した日本語教育を行っていくためには、外国人を受け入れる企業側の意識の改善や工夫、そして日本語指導者の知識と技術の向上が求められる。こうしたことから、企業内日本語教室で活用を進めていき、日本語教師と企業とが協働してステップアップシートを使えるような事例を作っていくことが必要である。

＜取組2＞											
取組2	取組の名称		多文化コンシェルジュ育成講座								
	取組の目標		高い日本語能力を有する外国人が、日本人と外国人市民との懸け橋のような存在になるために必要な日本語能力（プレゼンテーション能力、対外折衝能力、文章作成能力）及び日本文化習慣について知識を習得し、多文化共生に資する人材になることを目標とする。また、同国出身の後輩外国人に対する日本語教育が行えるよう専門的な日本語を学び、自助共助のコミュニティリーダーの育成に努める。								
	取組の内容		多文化コンシェルジュに必要な能力として、日本語でのプレゼンテーション能力、対外折衝能力、文章作成能力があげられる。特に、高い日本語能力を有する外国人によると日本語での日常会話はできるものの、日頃自分が考えたことを文字化する、文章化することが難しいということから、彼らが苦手と思われる日本語での活動が行えるようにする講座を実施した。また、日本人コミュニティの懸け橋として必要となる知識の習得と異文化理解を学ぶ。日本人向けの講座にて活動報告ができる、自分が住む地域の魅力について情報提供ができるなど、具体的な成果を感じられるようにする機会を提供した。 さらに、同国出身の後輩外国人に対して母国語を活用した日本語教育が行えるよう、専門的な日本語に関する知識と技術について学んだ。								
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
	取組による体制整備		多様な機関で開発されてきた平成28年度のカリキュラムを基に、本年度はさらに母国に情報発信ができるよう、多文化コンシェルジュを育成するために必要なカリキュラムの内容とした。講師には日本語教育の専門家だけでなく、企業から講師を迎え、地域協働の体制を構築した。								
	取組による日本語能力の向上		市内の協働センター（旧公民館）における異文化理解講座での講師や地域に貢献できる人材に必要な日本語や知識を習得した。 また、日本の企業でのコンシェルジュ的な立場になれるよう、日本人との就労上必要な日本語コミュニケーション力を習得した。								
	参加対象者		市内外国人コミュニティのリーダーやN2、N1を有する外国人あるいは外国にルーツのある第2世代の若者、留学生、技能実習生				参加者数 （内 外国人数）		人 （ 人）		
	広報及び募集方法		浜松国際交流協会と静岡県国際交流協会の機関誌、当法人のホームページとSNS、外国人コミュニティへのチラシ配架								
	開催時間数		総時間 27時間（空白地域 時間）								
	主な連携・協働先		浜松市、NPO法人天竜川まちづくりの里、河輪町自治会、河輪町PTA、浜松学生ボランティアセンター、はまぞう株式会社								
参加者の出身・国別内訳 （人数）		中国		ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
				6				10	1	2	
		日本 22名、インド 2名									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名		
1	平成29年6月24日 （土） 13:30～16:30	3	グローバル人材サポート浜松研修室	2	多文化コンシェルジュの意義と活動	多文化コンシェルジュの活動と意義について考える		堀 永乃	杉本里美 寺田アリス		
2	平成29年8月6日 （土） 13:30～16:30	3	グローバル人材サポート浜松研修室	3	イベント企画	日本人と外国人とをつなぐための活動について企画をしてみる		堀 永乃	杉本里美 寺田アリス		
3	平成29年8月26日 （土） 13:30～16:30	3	天竜川河川敷	15 一般参加者（100）	イベント運営・実施	実際にイベントを運営して、国際交流と多文化共生の意識を深めていく		堀 永乃 村井一美 井柳 誠	杉本里美 鈴木淑恵		
4	平成29年9月30日 （土） 13:30～16:30	3	はまぞう（株）	12	自己PRの仕方	相手により印象的な自己紹介の仕方を学ぶ		西川寛之	杉本里美 寺田アリス		
5	平成29年10月7日 （土） 13:30～16:30	3	西遠女子学園	12	自己PRの実践	高校の学園祭に参加して、日本語での説明を聞いたり、自己紹介をしたりする					
6	平成29年11月25日 （土） 13:30～16:30	3	はまぞう（株）	2	企業が求める人材とは	ベンチャー企業の経営者から求められる人材について学ぶ		佐野 憲 吹野 豪	杉本里美 寺田アリス		
7	平成29年12月2日 （土） 13:30～16:30	3	グローバル人材サポート浜松研修室	9	活動の振り返り	多文化コンシェルジュとしての活動を振り返ってみる		堀 永乃	杉本里美 寺田アリス		
8	平成29年12月16日 （土） 13:30～16:30	3	浜松学生ボランティアセンター	23	外国につながる子どもたちの教育支援	子どもの教育支援で求められる姿勢や活動方法の工夫について学ぶ		松本一子	杉本里美 寺田アリス		
9	平成30年1月27日 （土） 13:30～16:30	3	グローバル人材サポート浜松研	9	活動を発表する	シンポジウムでの発表に向けて日本語の練習を行う		伊藤真弓	杉本里美 寺田アリス		

## (1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

### ○取組事例①

【第3回 29年8月26日】

「天竜川河輪の陣」と題して、多文化コンシェルジュが水鉄砲大会と流しそうめんの体験を企画した。河輪町住民の皆さんにご協力いただき、地域の日本人住民ご家族と一緒にグループを作り、グループ対抗戦で水鉄砲合戦を行なった。NPO法人天竜川まちづくりの里とも連携して、高齢者のボランティアさんたちによる流しそうめん台を竹で作ってもらい、流しそうめんも体験した。老若男女が一堂に集まり、交流ができた。



### ○取組事例②

【第4回 29年9月30日】

浜松で活躍できる人になるために、もっと上手に自己PRができるようになりたいという受講者の声から、実践的な活動を踏まえた上で、受講者同士が双方に考えあって印象に残るような自己紹介の仕方を学んだ。



### ○取組事例③

【第5回 29年10月7日】

西遠女子学園の学園祭に参加して、中学生や高校生による展示発表を聞き、日本語の理解を深めた。日本の高校に入ること自体が初めてだったので、受講者たちの関心度は高く、高校生の友達づくりもでき、交流を深められた。



## (2) 目標の達成状況・成果

地域の日本人住民の方々との交流が深められたり、「顔がつながる」きっかけづくりを様々な場面で行うことができた。特に天竜川河輪の陣は、多文化コンシェルジュと大学生、地域住民の方々との協働で実施できた企画であり、その企画を実践するために企業やNPOの協力を得られた。このように多様な人たちが関わりあって、外国人と日本人とをつなぐことができたことは、まさに多文化コンシェルジュのもつ社会的な役割と意義を明確にしたものであると考えられる。

## (3) 今後の改善点について

多文化コンシェルジュという役割は、外国人だけではなく日本人にも必要である。しかしながら、「資格」としてあるわけではないため、多文化コンシェルジュになることの良さが社会に広く伝わっているとは言い難い。



＜取組3＞									
取組3	取組の名称		多文化コンシェルジュによるバイリンガルを活用した日本語教室の設置運営事業						
	取組の目標		多文化コンシェルジュによる外国人のための外国人による母国語を活用した日本語教室を開講し、来日したばかりの外国人や日本語学習の機会に乏しかった外国人が、母国語で日本語と日本文化(習慣、労働観)を学び、日本社会への早期適応と言語能力向上による生活上への不安を軽減することを図る。						
	取組の内容		多文化コンシェルジュの活躍の先として同国出身者で日本語学習の機会や日本語能力が乏しい者に対して、母国語を活用した日本語学習の場を提供した。内容としては、生活上に早期習得すべき日本語会話や表現を学ぶための「生活の日本語」、日常生活のなかで多々生じる異文化上のトラブルを軽減するための「日本の文化と習慣」、子育て中に日本人の幼稚園教諭やママ友との会話が円滑にできるような「子育て会話」など、受講者のニーズに合わせた内容を学んだ。また、平成28年度に開発したキャリアデザイン案に即し、より社会参加ができるような力の養成を行った。						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		日本語指導にあたるのは、日本人の日本語教師とバイリンガルの多文化コンシェルジュであることから、日本人指導者と外国人指導者の連携・協働によるもの。従来のような日本語教室とは異なり、バイリンガル教師は補助的な活動ではなく、日本人指導者と主体的に教室運営に携わった。また、先輩外国人が後輩外国人の受講者の中から次の代を担う人材を発掘することができた。						
	取組による日本語能力の向上		母国語を活用して、日本での生活において、また社会参画に向けて必要最低限の日本語を習得することができた。また指導にあたる多文化コンシェルジュが先輩外国人として、後輩同国出身者に様々な助言をすることから、個人的な状況であっても、受講者がまさに今必要としている日本語コミュニケーションの手法を習得することも可能となった。						
	参加対象者		多文化コンシェルジュ、母国語で日本語を学びたいと思っている外国人市民、社会的自立を考えている外国人			参加者数 (内 外国人数)		49人 ( 人)	
	広報及び募集方法		外国人コミュニティのネットワークを活用し、SNSでの周知を図る。また、外国人経営者の店舗等でのチラシ配架を行った。						
	開催時間数		総時間 44 時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		静岡県、浜松市、平野ビニール工業株式会社、NPO法人アラッセ、学生団体WISH						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
			2			3	25		11(子ども6名)
		日本 8名、インド 2名							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成29年7月16日 (土) 13:30～15:30	2	グローバル人材サポート浜松研修室	6	インドネシア人のための日本語教室	日本とインドネシア文化の違い		伊藤真弓	ワルシト
2	平成29年7月23日 (土) 13:30～15:30	2	グローバル人材サポート浜松研修室	6	インドネシア人のための日本語教室	日本人宅への訪問の仕方		伊藤真弓	ワルシト
3	平成29年8月6日 (土) 13:30～15:30	2	グローバル人材サポート浜松研修室	6	インドネシア人のための日本語教室	様々な旅行の仕方		伊藤真弓	ワルシト
4	平成29年8月14日 (月) 13:30～15:30	8	高山 (バスツアー)	37	インドネシア人のための日本語教室	友達になろう		ワルシト 伊藤真弓	
5	平成29年8月27日 (土) 13:30～15:30	2	グローバル人材サポート浜松研修室	8	インドネシア人のための日本語教室	友達になろう		伊藤真弓	ワルシト
6	平成29年9月10日 (土) 13:30～15:30	2	グローバル人材サポート浜松研修室	6	インドネシア人のための日本語教室	病院で使う日本語		伊藤真弓	ワルシト
7	平成29年9月17日 (土) 13:30～15:30	2	グローバル人材サポート浜松研修室	6	インドネシア人のための日本語教室	美容院で使う日本語		伊藤真弓	ワルシト
8	平成29年11月5日 (土) 13:30～15:30	2	マタハリカフェ	12	インドネシア人のための日本語教室	日本人の友だちとなかよくなろう		伊藤真弓	ワルシト
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成29年7月25日 (火) 19:00～21:00	2	五島協働センター	5 (6)	ポルトガル語で学ぶ日本語教室	親子面談での会話(子供の様子を聞く)		堀 永乃	金城アイコ 宮本ルーカス 坂東麻子

2	平成29年8月1日 (火) 19:00～21:00	2	五島協働セン ター	3 (4)	ポルトガル語で学ぶ 日本語教室	学校の先生とのコミュニケーション	坂東麻子	金城アイコ 宮本ルーカス
3	平成29年8月8日 (火) 19:00～21:00	2	五島協働セン ター	2 (4)	ポルトガル語で学ぶ 日本語教室	日本の文化と習慣、形容詞	金城アイコ	宮本ルーカス 坂東麻子
4	平成29年8月22日 (火) 19:00～21:00	2	五島協働セン ター	3 (6)	ポルトガル語で学ぶ 日本語教室	動詞の活用	宮本ルーカス	金城アイコ 坂東麻子
5	平成29年8月29日 (火) 19:00～21:00	2	五島協働セン ター	3 (4)	ポルトガル語で学ぶ 日本語教室	病気の表現	金城アイコ	宮本ルーカス 坂東麻子
6	平成29年9月5日 (火) 19:00～21:00	2	五島協働セン ター	3 (4)	ポルトガル語で学ぶ 日本語教室	学校のお便りを読む	金城アイコ	坂東麻子
7	平成29年9月12日 (火) 19:00～21:00	2	五島協働セン ター	4 (4)	ポルトガル語で学ぶ 日本語教室	日本語文法	坂東麻子	金城アイコ 宮本ルーカス
8	平成29年9月19日 (火) 19:00～21:00	2	五島協働セン ター	3 (6)	ポルトガル語で学ぶ 日本語教室	日本語文法	坂東麻子	金城アイコ 宮本ルーカス

#### 実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成30年1月13日 (土) 16:00～17:30	1.5	グローバル人 財サポート浜 研修室	6	女性のキャリアアッ プのための日本語 教室	ステップアップシートを活用しステップ 1の項目を学ぶ「職場の雰囲気慣 れる」ための「同僚と雑談ができる」よ うになる	増田由美	寺田アリス
2	平成30年1月20日 (土) 16:00～17:30	1.5	グローバル人 財サポート浜 研修室	6	女性のキャリアアッ プのための日本語 教室	「勤務体制に慣れる」ために「印象良く 聞ける、質問できる」	増田由美	寺田アリス
3	平成30年2月3日 (土) 16:00～17:30	1.5	グローバル人 財サポート浜 研修室	7	女性のキャリアアッ プのための日本語 教室	「配置エリア内見学後、スタッフと一緒 に職場のルールに基づいた業務を実 施できる」ようになるために、「自分の 仕事について説明できる」ことを学ぶ	増田由美	寺田アリス
4	平成30年2月10日 (土) 16:00～17:30	1.5	グローバル人 財サポート浜 研修室	6	女性のキャリアアッ プのための日本語 教室	「職場の記録の種類を知る」ために、 「記録」を学ぶ	増田由美	寺田アリス
5	平成30年2月24日 (土) 16:00～17:30	1.5	グローバル人 財サポート浜 研修室	4	女性のキャリアアッ プのための日本語 教室	「ゴミの分別ができる」ようになるため に、ゴミ処理と清潔にすることを学ぶ	増田由美	寺田アリス
6	平成30年3月3日 (土) 16:00～17:30	1.5	グローバル人 財サポート浜 研修室	4	女性のキャリアアッ プのための日本語 教室	「報告、連絡、相談ができる」を目標 に、困った時の相談の仕方を学ぶ	増田由美	寺田アリス



## (1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

### ○取組事例①

【インドネシア人のための日本語教室第4回 29年8月14日】

インドネシア出身の多文化コンシェルジュが技能実習生や留学生、在住外国人と日本人に声をかけてバスツアーを企画運営。コンシェルジュがバス会社との交渉やバス車内でのレクリエーションを考え、日本語を使って参加者が交流を深める機会となった。同国出身者のリーダーとしてみんなをまとめ上げ、誰もが楽しいと思える企画になっていた。特にビンゴゲームや自己紹介ゲームなどでは司会進行も務め、先輩が後輩を引っ張っていく姿が見られた。



### ○取組事例②

【女性のキャリアアップのための日本語教室第1回 30年1月13日】

ステップアップシートを活用した日本語教室を実践した。ステップ1で求められる能力(行為)を日本語で行うことができるようにしていく内容。講師がモデル例を話し、自分語りができるようチェーンプラクティスで活動を行った。職場の人間関係をよくするためには、自分のことが話せないといけないということで、家族構成やどんな生活リズムで過ごしているのかを話せるようにした。



## (2) 目標の達成状況・成果

・ブラジル人のための日本語教室では、子どもと一緒に参加できるような仕組みにして子どもたちは大学生ボランティアと勉強することができるようになった。その結果、家族で教室に通うことができるようになった。また、教室開催チラシを小学校を通して配布することができたので、広く周知できた。

・インドネシア人のための日本語教室では、多文化コンシェルジュとしての役割を十分に果たしながら、教室をコーディネートしてくれたので、日本人との交流を深めることのできた教室となった。受講者へのマメな連絡調整など、きめ細やかな対応ができた。参加者に日本人ボランティアが常時いてくれた事も成果。

・女性のキャリアアップのための日本語教室では、4月から正社員として働きたいと考えている女性や新しく仕事を始めたいという女性の参加があり、同じように将来を見据えた女性たちが参加してくれた。実際にステップアップシートを使って授業を実践できたことがよかった。そのため、受講者の満足度も高く、実際に何がどのくらいできるようになっているのかを感じながら授業が行われていたことがうかがえる。

## (3) 今後の改善点について

・市内には様々な日本語教室があり、外国人住民は日本語教室の選択肢が広がっていることはいいが、その教室で何ができるようになるのか、勉強した結果どうなることができるのか明確でないと、日本語教室に足を運ぼうと思う人が少ない。特にブラジル人が多い居住区で教室を開講しても、仕事が終わってからの日本語教室には通わない人が多い。職場内に日本語教室を設置するか、オンラインで日本語が学べるようにするか、今後は教室の形態も変化が必要になっている。また、ステップアップシートを活用した日本語教室の実践を、今後は企業や地域で実証してみる必要があり、さらにそれを使った教授ができる日本語指導者を育成していく必要もある。実務型日本語教師の必要性は取組1で明確にできているが、この事業の汎用性を高めるために指導者をどう育成していくかが課題となっている。

＜取組4＞

取組4	取組の名称		活動報告会「地域創生のための外国人のキャリアデザインと多文化パワーの活用」									
	取組の目標		多文化コンシェルジュが日本人市民に対して、浜松や静岡県の実現のために必要なこと、自身がすることは何かを提言するため、本事業（取組1～3）に関する報告会を開催し、広く市民に対して日本語教育を「地域全体の課題の解決策」として考えることと多文化共生の意義を意識啓発していく。									
	取組の内容		多文化コンシェルジュの企画運営による報告会を開催し、本取組の成果とした。具体的には、多文化コンシェルジュによる活動報告を行い、これまでの成果から外国人市民として、当事者として、外国人側が日本社会において「何をすべきか」を提言していくものとした。また、これらの一連の活動を通して静岡県西部地域の外国人リーダーのネットワーク構築を目指した。さらに、日本語能力を有する外国人人材が地域を豊かにしていく活動を発信することで、参加者に対して、外国人の社会参画のためには、地域が総括的に日本語教育に携わる必要性があること、さらに外国人市民が地域の文化創造も担っていることなどについて理解を深めていった。また、報告会では、多文化コンシェルジュによる「浜松の魅力」写真展を同時開催し（一部企業協賛で行う）、その魅力について日本語で説明したりする場も設けた。これにより、外国人の社会参画を促す機会を創出した。 なお、本目的を達成するために登壇者と大学生を含む企画者による企画会議を開催し、多文化共生や日本語教育の業界外の参加者への意識啓発を効果的に行うための内容運営協議を行った。									
		空白地域を含む場合、空白地域での活動										
	<input type="checkbox"/> 取組による体制整備		報告会に静岡県西部地域で活躍する外国人コミュニティのリーダーや外国人支援を行う日本人市民に対して参加の周知を促すことにより、多文化コンシェルジュと他団体の外国人のネットワーク構築を整備した。また、シンポジウムの運営に大学生を加え、これまで多文化共生や外国人支援、日本語教育に関わったことのない学生の意識啓発につなげ、多様な人の関わりによる連携体制の構築を目指した。									
	取組による日本語能力の向上											
	参加対象者		外国人市民、日本語学習支援者、多文化共生に興味のある方				参加者数 （内 外国人数）		92人 （ 20人）			
	広報及び募集方法		外国人コミュニティのネットワークを活用し、SNSでの周知を図った。また、外国人経営者の店舗等でのチラシ配架を行った。									
	開催時間数		総時間 3 時間（空白地域 時間）									
	主な連携・協働先		浜松市、河輪町住民、NPO法人天龍川まちづくりの里、NPO法人アラッセ、学生団体WISH、静岡県西遠女子学園、はまぞう（株）									
	参加者の出身・国別内訳 （人数）	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル			
		1	3			1	5		10			
		日本 82名										
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名			
1	平成30年2月3日 （土） 13:30～16:30	13:30～13:45	ギャラリー2	92	事業の振り返り	多文化コンシェルジュ育成事業の報告		（映像報告）	杉本里美 鈴木淑恵 金城アイコ			
		事業総括			外国人財のキャリア教育のための日本語教育支援とは		西原鈴子	杉本里美 鈴木淑恵 金城アイコ				
		報告1			フィリピン音楽交流プロジェクト		HANDS	杉本里美 鈴木淑恵 金城アイコ				
		報告2			天竜川河輪の陣		多文化コンシェルジュ（ヒエップ、ワルシト、ランガ） こもだち（今村、渡邊）	杉本里美 鈴木淑恵 金城アイコ				
		報告3			グローバル講座		楠野映未	杉本里美 鈴木淑恵 金城アイコ				

## (1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

### ○取組事例①

#### 【発表】

インドネシア出身の多文化コンシェルジュと大学生による活動報告では、地域の皆さんの協力があつたことや子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の日本人参加者があり、様々な国の外国人とともに活動を行い、感動を共有できたことを発表した。高校生の発表では、彼女自身が外国人との出会いから浜松市の中にある外国のお店などにも自発的に行ったこと、世界が身近にあることなどの気づきを得たことを発表した。



### ○取組事例②

#### 【司会進行】

ベトナム出身の留学生が司会進行を行った。発表を聞いた上で、質問を考えて発表者の考えや感想を引き出していった。会場の聴講者も巻き込んで場の雰囲気盛り上げて、「多文化コンシェルジュ」のことを詳しく理解してもらうように努めていた。



## (2) 目標の達成状況・成果

・全国各地から参加者が集まったことに、このフォーラム(報告会)への関心度の高さがうかがえる。また、参加者の中には外国人当事者も多く、これまでのフォーラムの中でも一番多国籍の参加者が集まった。多文化コンシェルジュの事業を自分の地域でも開催してほしいという要望もあるほど、この活動が長年培ってきたノウハウは必要とされていることがわかった。多文化コンシェルジュ自身の企画と、発表者の発表内容のレベルの高さにも参加者から評価が高く、これからは技能実習生や留学生といった人たちにもっと地域に出て活躍してもらうことが大切だということが周知できたことが良かった。

また、アンケートから司会進行を務めた留学生のウィットに富んだ日本語インタビューや進行に評価が高かったことがわかる。インタビュアーとしての活躍ができ、彼自身の将来の夢(ジャーナリストになること)に向けて、貴重な機会になった。

## (3) 今後の改善点について

・今年度で一つ区切りをつけて、あえて「報告」スタイルをとった。自分たちが行ってきたことをしっかり述べることや聴講者によりわかりやすく理解してもらう努力を発表者たちが一生懸命行ってきたことが大きな成果である。一方で、今後は自主事業としてこれらのことを実施していかねばならない。特に町民を巻き込んだイベントは、企業の協賛なども必要となってくる。事業の継続化という点が今後の課題となっている。

#### 4. 事業に対する評価について

##### (1) 事業の目的・目標

静岡県西部地域に在住する外国人の自己実現とキャリア形成のための日本語教育スキームの構築を目指す。そして高い日本語能力を有する外国人が多文化コンシェルジュとして、同国出身者の後輩外国人のために日常生活の情報や母国語で日本語を学ぶことができる機会の提供ができるようにし、多文化コンシェルジュの育成と彼らの実践を通して、互助共助の外国人コミュニティの構築と外国人の社会参画につなげていく。さらに、本事業を地域を構成する企業、行政、NPOなどと連携・協働することで、社会包括的な外国人に対するキャリア形成のための日本語教育支援の仕組みを確立していく。

##### (2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・運営委員の評価アンケートやフォーラムのアンケートでもわかるように、最終年度として「多文化コンシェルジュ育成」を行い、地域ぐるみでの活動も行うことができたり、高校に行き互いのことを話す機会を作ったりしたことで、「地域日本語教育」への理解を促すことができたと言える。マスコミでも地方紙だけではなく全国紙の一面に、フォーラムの様子が記事として上がったこともあり、多方面からの問い合わせもあった。今後も多文化コンシェルジュは様々な場面での活躍が見込まれ、より地域に貢献する人材となることが期待される。特に西遠女子学園では、「グローバル講座」として外国人との交流を通して国際的視野を育む取組に多文化コンシェルジュの活躍の場を創出してくれている。こうしたことは、我々のこれまでの活動が認められ、一定の評価を得られたと考える。

##### (3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

地元住民とNPOと連携をしてイベントを企画運営できたことは大きなインパクトがあった。外国人留学生と地元の小学生が一緒にグループを作って水鉄砲を楽しむというようなことは、なかなか機会がないとできない。また、地域自治会のお年寄りも参加していただき、積極的に TENT を張ってくださったり、流しそめんの竹台を作ってくださいたり、とても協力的であった。外国人との共生についても前向きに考えてくださり、理解を深めてくださった。

##### (4) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

多文化コンシェルジュ講座は、先輩コンシェルジュから後輩コンシェルジュに口コミで広まるような形だった。運営委員や当法人の活動に賛同してくださっている方々からの協力もあり SNS での情報発信が一番効果的であったと思う。報告会フォーラムでも同様に、チラシや広報を見て参加したというよりも、人が人を介して情報が伝わっていた。天竜川河輪の陣では、地元町民の PTA や自治会のみなさんが声を掛け合ってください集まった。事業自体はマスコミの取材を受けることで広く市民に周知することができた。

##### (5) 改善点、今後の課題について

多文化コンシェルジュという資格にするのか、こうした役割を担う人はおそらく潜在的にたくさんいると推測される。すると、外国人だけではなく日本人にも多文化コンシェルジュになっていただく必要がある。しかし、このコンシェルジュになることでどういうメリットがなった本人にあるのかという点では、コンシェルジュとして活躍できる場のイメージが具体的に確立されているわけではないので、資格需要があまり高くない。スキーム会議でも最終議論として上がったように、「多文化コンシェルジュ」というブランディングが今後の課題となっている。また、地域住民との関わりを深く持つことができた「天竜川河輪の陣」は今後、自主事業として実施していくことになる。多文化コンシェルジュも在住者ではなく技能実習生や留学生であったりするので、世代交代が鍵となる。そのため、事業の継続化をどうしていくのが課題となっている。

##### (6) その他参考資料

添付資料①アンケート、②各事業のチラシ、③フォーラム資料、④映像資料、⑤スキーム会議における資料等